

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業の概要

事業名	茶屋ヶ坂牛巻線（御田・神宮前1号踏切）	事業区分	街路	事業主体	名古屋市
起終点	自：愛知県名古屋市熱田区神宮三丁目 至：愛知県名古屋市熱田区三本松町	延長	120m		
<p>事業概要</p> <p>本事業は、都市計画道路茶屋ヶ坂牛巻線と東海旅客鉄道東海道本線、名古屋鉄道名古屋本線、名古屋鉄道常滑線との踏切（御田・神宮前1号踏切）において歩行者等の安全確保のため、立体横断施設を整備し、踏切を廃止するものである。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>当該踏切は、第1種手動踏切であり、ピーク1時間当たりの遮断時間は57分、1日当たりの遮断時間は16.8時間の「開かずの踏切」である。歩行者や自転車は、踏切警手が通過列車の合間に遮断機を半分だけ開けたときに横断しているが、朝晩のラッシュ時には歩行者と自転車が混在し危険な状況にあるため、立体横断施設を整備し、歩行者や自転車が安全かつ円滑に横断できるようにするものである。</p>					
全体事業費	約6億円	踏切交通遮断量	14,986台時/日		
<p>事業概要図</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業箇所 JR 東海道 名古屋鉄道 道路 					

関係する地方公共団体等の意見

名古屋新世紀計画（H12年度～H22年度）において、歩行者などの多い「開かずの踏切」の対策として立体横断施設の整備が位置づけられているとともに、名古屋市より早期実現の要望が出されている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。
名古屋新世紀計画に位置付けられており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用	6.1億円	総便益	9.6億円	基準年	平成18年	
			事業費	5.5億円	走行時間短縮便益	8.3億円			
			維持管理費	0.60億円	走行費用減少便益	0.00億円			
感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.7	(交通量+10%)		B/C=1.5	(交通量-10%)			
	事業費変動	B/C=1.5	(事業費+10%)		B/C=1.8	(事業費-10%)			
	事業期間変動	B/C=1.5	(事業期間+10%) (+1年)		B/C=1.6	(事業期間-10%) (-1年)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠						
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-						
		事故対策		踏切事故の解消が図られる。 当該箇所、過去5年間に1件の踏切事故（うち、死亡事故1件）					
		歩行空間		踏切除却及び立体横断施設整備により歩行者・自転車利便性の向上、バリアフリー化を促進。 現在、歩行者は歩道のない踏切と歩道橋で横断し、自転車は踏切を横断しているため、歩行者・自転車の安全性が向上する。（歩行者・自転車交通量：計3,814人/日）					
	社会全体への影響	住民生活		踏切の廃止に伴い自動車等の流入が減少し、地域の安全性が向上する。また、鉄道により分断されていた地域間の交流が期待できる。					
		地域経済		鉄道による地域分断が解消されることにより、商店街を始めとする街の活性化が期待できる。					
		災害	-						
環境			踏切渋滞が解消され、CO ₂ の排出量の削減が図られる。						
地域社会	-								
事業実施環境		名古屋市都市計画マスタープランで鉄道との立体交差化の推進が位置づけられている。							

採択の理由

費用便益比が1.6と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、開かずの踏切の除却や歩行者・自転車の円滑化、踏切事故の解消等に対する事業の必要性・効果は高いと判断される。

以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。